

「研修会等名称」  
第11回FDフォーラム “これからの大学教育”

場所：京都  
期間：2006年3月11日、12日

#### 1. 研修の内容

2006年3月11日は、京都外国語大学、森田記念講堂にて、基調講演、シンポジウム、情報交換会などがおこなわれた。13:00から13:10までは、京都外国語大学学長の堀川徹志氏による会場校挨拶があった。続いて第11回FDフォーラム企画検討委員会委員長の任についている京都外国語短期大学教授の菅野瑞治也氏の挨拶があった。13:10から14:10までは、慶応義塾長の安西祐一郎氏の基調講演があった。全入時代に入った今日、並びに今後の大学教育をどのようにしていかなければならないのか、重要な示唆を得られた。14:30から17:00までは『大学教育への期待』と題するシンポジウムが行われた。コーディネーターは、同志社大学教育開発センター所長の圓月勝博氏が務め、発表者は、寺崎昌男氏（陸橋学院本部・立教大学総長室調査役、東京大学・桜美林大学名誉教授）、北川正恭氏（早稲田大学大学院公共経営研究科教授）、及び椋本洋氏（立命館大学高大連携推進室教授）の3人であった。大学教員の質保証と教職員の役割、大学を取り巻く環境の変化と大学教育への期待、新局面を迎えた高大連携と大学教育への期待、といったことが議論の内容となった。17:00から19:00は情報交換会が催された。

2006年3月12日は、京都駅となりのキャンパスプラザ京都にて、分科会が行われた。開催時間は10:00から15:00で、以下の8つの分科会に分かれて報告・討論がなされた。第1分科会、授業改善 双方向型授業の実践：第2分科会、全入時代における大学の課題 初年次教育・接続教育：第3分科会、短期大学の課題：第4分科会、大学院大衆化時代の大学院教育 専門知をどう育てるか：第5分科会、FD活動をどう組織化するか FDの具体化と学生の役割：第6分科会、大学におけるキャリア教育：第7分科会、意欲の喚起と動機付け：第8分科会、大学間授業連携の先進的取り組みー現代・特色GPとITのO化（Open Course Ware 構想）を中心にー。

## 2. 研修の成果

3月11日の基調講演並びにシンポジウムでは、今後の大学教育全般にわたって生じる問題点について考えさせられたと同時に、予測される変化にはどのようなものがある、それに対する対処のし方のヒントを得たように思われる。今後大学教育に関わる諸問題が本学において発生した場合、この基調講演並びにシンポジウムで得たヒントは、問題解決の鍵となるものと思われる。

3月12日の分科会は、第2分科会“全入時代における大学の課題 初年次教育・接続教育”に参加した。コーディネーターは、高橋伸一氏（京都精華大学）と中村博幸氏（京都文教大学）の二人。まず、コーディネーターの両氏から、“全入時代”、“接続教育”、“初年次教育”といったキーワードについて詳細な解説があった。これにより、これらの言葉の概念がいっそう明確なものとなった。最初の報告者は、池田輝政氏（名城大学）で、“現在までの接続教育・初年次教育の俯瞰”という題で報告がなされた。日本の入学前教育や初年次教育をアメリカ並びにオーストラリアの大学におけるそのような教育と比較検討することを中心に説明がすすめられていった。外国との比較は興味深いものであったし、発表者の説明の仕方はわかりやすかったが、例えが幼稚なような気がした。ただ、本学並びに本学部で行われていることを比較評価する上で、有効な指針となった。続いて報告したのは、三尾忠男氏（早稲田大学 教育・総合科学学術院 教育学部教育学科教育学専修）で、“専修独自の初年次学生対象の取り組みと、初年次教育に関する学生アンケート調査”という題で行われた。アンケート調査に基づく具体的な報告で、非常に分りやすかった。発表者が特に訴えていたのは、導入・初年次教育は、学科とか専修といった小さな単位で立案・実践するのが取りこぼしがなく効果的であるということと、専修オリエンテーションでは“教員と学生の自由懇談”の強化を求める声が多いということであった。このてんは、本学、本学部では大いに参考にすべきことであろう。3人目の発表者は遠山紘司氏（神奈川工科大学 教育開発センター）で、“神奈川工科大学における接続教育”という題でなされた。特に強調されたのは、同大学内に“基礎教育支援センター”と称する施設を設け、そこに“チューター”という個人指導教員を常駐させるということである。数学、物理、化学、英語の4科目を担当する人員を配置し学生の学習面の支援に応えるものであるという。また、チューターは、原則として高等学校教員OBから選考しているという。この点は、本学でも多様な入試を実施している以上、考慮しなければいけないところではないだろうか。

## 3. 授業への研修成果の反映状況

入学前教育（初年次教育、接続教育）に関しては、全般的には、本学並びに本学部は他大学に比して進んでいるように思われる。現に、池田輝政氏（名城大学）が日本の大学における初年次教育（導入教育）の内容として掲げたものは、すべて入門ゼミで網羅している。また、三尾忠男氏（早稲田大学 教育学部教育学科教育学専修）は専修単位でのオリエンテーションを2004年度から実施し、その効果について報告されたのであるが、本学部では学部設立以来実施してきている。

学部長	FD委員長	FD委員会	総合企画課長	係